



市役所ロビーに設置された「ビデオテックス」

昔

昭和61年1月



今



左の写真は、市役所ロビーに初めて設置された情報機器端末「ビデオテックス」。この端末は、画面の案内通りに数字のボタンを押すことで、市内のイベントや観光情報等を見ることができ、当時としては画期的なものでした。現在では、案内板がタッチパネルになるなど、利便性向上のための技術は進歩しながら活用されています。



タッチパネルの案内板以外にも市役所には様々な機器が設置されています。



昭和36年に焼失した「市立紅茶経営指導所」。この地には現在、緑茶の茶畑が広がっている。

昭和36年には、市は新たな茶業技術員を迎え入れ、更なる生産拡大を目指しますが、紅茶工場は火事で焼失してしまいます。しかし、

市内の茶といえば「かのや深蒸し茶」が有名ですが、かつて鹿屋市では紅茶の生産が始まったのは昭和初期。主に輸出が目的でした。その後、国が全国的に紅茶生産を推し進めたことで、県も紅茶の産業化を推進。それに伴い、市も昭和34年、小野原町に市営の紅茶工場である「市立紅茶経営指導所」を建設し、生産拡大を進めていきました。

しかし、昭和47年の紅茶の輸入自由化を見据えて方針を転換。昭和45年で生産を打ち切り、市内で生産される茶のほとんどが緑茶に切り替えられました。時代の流れとともに今では知る人も少なくなった鹿屋の紅茶の歴史です。

その後も紅茶の生産拡大が続けられ、昭和37年に当時の野里農協が国や県、市の補助を得て大規模な紅茶工場を建設。当時では最新の機器を備えた県内有数の工場でした。鹿屋の紅茶は品質が非常に優れており、右肩上がりに生産を拡大しながら、全国の品評会で優秀な成績を数多く残しました。



野里町にあった紅茶工場は、茶を2階の乾燥室などに運ぶための外階段が取り付けられていた。(写真は昭和37年12月発行の広報かのやより)

盛んだった鹿屋の紅茶生産

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!